



# 輝く 恵那人

215人目



三郷町野井西組第一

あべ まなみ 阿部 真奈美さん (45歳)

### □プロフィール

5人の子を持つ母。トマト以外にもイチゴやネギなどを栽培している。農園では、トマトジャムやイチゴのアイスクリームなども販売。今はパスタソースを開発中。趣味はつまみ細工や羊毛フェルトでの小物作り。好物は梅干し。



▲トマトを収穫する阿部さん

## 農業を魅力的な職業に 農業と福祉の連携を目指して

焼けるような陽ざしが降り注ぐ8月、トマトは最盛期を迎える。「夏のトマトは、みずみずしくて美味しいけれど、秋に採れるトマトも味が凝縮していて、とてもおいしいんですよ」と、笑顔で話すのは、三郷町で6000本のトマトを栽培している阿部真奈美さん。生まれは東京で、アパレル関係の仕事をしてきた。結婚を機に三郷町に移り住み、アルバイトのつもりで近所のトマト農家を訪れたのが、農業との出会いだった。そこでトマト栽培の楽しさや、中山間地域で農業に取り組む地元の人たちのひたむきさに触れ、トマト農家を志すことを決めた。まさか自分が農業経営をするとは思っていなかったが、「農業って、奥が深くとも楽しい」と目を輝かせる。同じように育てても、毎年味や収穫量が変わる。自分の頑張りがトマトの収穫という形で成果となって現れ、達成感があった。同業者とは、ライバルというより対

等なトマト農家として悩みを相談できた。農家になって10年ほど経った頃、悪夢のようなことが起きた。丹精込めて栽培していたトマトが全て病気で枯れてしまったのだ。呆然と立ち尽くすことしかできなかった阿部さんを救ったのは、同業者や、自身の子どもたちだった。温かい支援や激励の言葉、優しさに触れ、もう一度頑張ってみようという前を向くことができた。トマト栽培を始めて20年、やりたいことは尽きない。自身の子に障がいがあることもあり、関心を持っているのは福祉との連携。障がい者などの就労や生きがいづくりの場を生み出し、農業分野では、新たな働き手の確保につながりたいと考えている。「農業がどんな人にも世代にも、魅力的な仕事として捉えられるよう、イメージを変えたい」と語る阿部さんの力強い言葉には、農業に対する情熱が溢れていた。



その他の話題もウェブサイトに満載



7/23・24

科学を体験、文化センターでこどもフェスタ2022開催

夏休み恒例のこどもフェスタが開催されました。2日間で約600人を超える親子が参加し、人型ロボットと一緒にSDGsを学んだり、体験ブースで科学に触れたりして楽しみました。山崎叶人君(長島小学校4年生)は「スーパーボール作りが楽しかった」と笑顔を見せました。



7/21

災害時に医薬品や衛生用品などを提供

中北薬品(株)(名古屋市)と市は、災害発生時等における物資の供給に関する協定を結びました。災害や感染症で物資が不足した場合、中北薬品(株)が医薬品や衛生用品、食料などを市に優先的に供給します。市の物資供給に関する協定は、これで10例目となりました。



7/29

市議会議場で「中学生と恵那市の未来を語る会」を開催

市内8中学校の生徒会代表が集まり、自校の取り組みをSDGsの目標と結び付け発表しました。さらに、特産品や食文化を生かした市のPRなど、未来へ向けた提案もされました。各校の意見を市政に反映させるため、8月18日には、小坂市長に提言書が手渡されました。



7/27

行方不明や孤独死を防ぐ 高齢者の見守りで連携

なかがわ漢方(株)(長島町)、(株)シヨクブン(名古屋市)、(株)スズケン多治見支店(多治見市)と市は、高齢者見守り活動に関する協定を結びました。この協定は、事業者が高齢者宅への訪問などを通して、高齢者の安否確認を行い、異変があった場合は市へ連絡するものです。



8/3

新しい移動サービス シェアサイクル事業開始

(株)エネファント(多治見市)と市は、協働でシェアサイクル事業を開始しました。シェアサイクルは、どこでも借りられて好きなステーションに返却できる、自転車の利用サービス。市内5カ所のステーションには、20台の電動アシスト自転車を設置されました。



7/30

笠置峡ボート・カヌー場 交流を伝える記念碑が完成

ポーランドカヌーチームとの交流の記憶や、東京オリンピックでのメダル獲得などの感動を後世に伝えようと、記念碑が設置されました。記念式典に出席した駐日ポーランド共和国大使のパヴェウ・ミレフスキ氏は「両国が力強く発展していくことを願います」と述べました。